

平成29年度 調布市立 石原小学校 学校評価報告書

様式1

領域	自己評価結果の概要	学校関係者評価結果の概要	次年度への改善策	次年度優先順位
学力向上	<p>○管理職による授業観察・指導、教員による交換授業や相互授業参観、校内研修会などを通して、授業力向上に努めた。教員個々の学級経営や授業のスキルアップ、校内のスタンダード確立を進めることができた。</p> <p>○算数における「石原スタンダード」を更新、共通理解して取り組むことができた。</p> <p>○研究授業を通して児童の実態や課題を明らかにし、算数科における問題解決型学習に取り組んだ。「教えられる算数」から「自分で考える算数」への転換が進み、児童の学習に向かう姿勢も変わりつつある。</p> <p>○児童の学習意欲向上、表現力の伸長等に効果が見られた。</p> <p>○「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において、AB層を5%増を目標に掲げたが、届かなかった。高学年の学力調査結果を見ると、基礎・基本の徹底は、まだ十分とはいえない。</p>	<p>○学校関係者評価アンケート（保護者）において、「学校の授業で、基礎・基本の定着や自ら学ぶ力の育成が図られていると思いますか。」91%という肯定的評価であった。学校での学びが信頼を得られていると考える。また、ノート指導について、保護者から評価の声が寄せられた。</p> <p>○学校関係者評価アンケート（中・高学年児童）において、「授業は分かりやすく楽しいですか。」中学年94%、高学年95%「前よりも、漢字の読み書きや計算力が上がっていますか。」中学年94%、高学年94%という肯定的回答であった。児童が、学校の授業で楽しさや充実感を感じていることがうかがえる。</p>	<p>○新学習指導要領の趣旨を授業に反映させるため、校内での研究・研修に取り組む。</p> <p>○英語科を視野に、外国語活動の授業の充実を図る。</p> <p>○これまでの算数科研究を基盤に、学力向上を図る。</p> <p>○石原小スタンダードを追加・修正し、学習の効率を向上させる。</p>	A
健全育成	<p>○生活指導全体会、職員夕会などにより、児童の状況と指導の共通理解を図った。指導する内容は、全校で徹底して取り組み、明るさ楽しさとともに、守るべきルールは徹底してきた。授業をはじめ、どの学年でも、けじめある学校生活を過ごすことができていた。</p> <p>○年間を通したあいさつ運動は本校の伝統であり、全学年・全児童が主体となってあいさつの習慣を身に付けることにつながった。</p> <p>○たて割り班活動をはじめ、5・6年生に高学年の自覚を育て、下級生がそれを見習う校風が育っている。</p> <p>【アレルギー対応】シミュレーション研修や職員朝会などで教職員の知識を深め、学期はじめなど折々に確認事項を全体で徹底した。適切に実施し、事故がなかった。</p> <p>【いじめの根絶】アンケート調査や職員夕会での情報交換により情報の収集・状況把握を行った。いじめや不登校の萌芽に対しては、迅速かつ組織的に対応し、深刻化させなかった。</p> <p>【防災教育】避難訓練を適切に実施し、避難時の適切な態度が育ってきている。</p> <p>【登下校の安全確保】地域パトロール隊・PTAと円滑な連携を図り、重大な交通事故・事件はなかった。</p>	<p>○学校関係者評価アンケート（保護者）において、「子どもたちは『学校のきまり』を理解し、守ろうと意識して生活できている。」92%という肯定的評価であった。学校の規律に対する信頼を得られていると考える。</p> <p>○学校関係者評価アンケート（中・高学年児童）において、「学校のきまりや約束は、学校でも学校以外でも守っていますか。」中学年88%、高学年92%「学校では、だれにでも自分から進んであいさつしていますか。」中学年96%、高学年92%であった。子どもたちが、きまりを意識して生活している様子がうかがえた。</p> <p>○評価委員からは、子どもたちのあいさつのよさや、授業態度のよさについて評価いただいた。</p> <p>○学校関係者評価アンケート（保護者）において、「学校は、子どもたちの心や体の健康や安全に対し十分に配慮しながら、日々の教育活動に取り組んでいると思いますか。」91%という肯定的評価であった。</p> <p>○学校関係者評価アンケート（中・高学年児童）において、「学校は毎日楽しいですか。」中学年90%、高学年93%「友だちをいじめたり、友だちにいじめられたりしないで生活していますか。」中学年93%、高学年95%という肯定的評価であった。引き続き、子どもたちを細やかに見守っていく。</p>	<p>○組織的な指導・対応、全校共通の指導を行うことで、安全・安心の徹底を図る。 ・学年会、生活指導部、いじめ防止対策委員会等、臨機に開催する。 ・実態把握のために、児童アンケートを実施する。 ・年度はじめや学期はじめ等に、校内・校外のきまり、アレルギー対応、非常時の体勢等を確認する。 ・校内の安全については、職員全員で総点検し、共通理解を図る。</p> <p>○特別の教科「道徳」の授業充実を図り、命と心の教育の充実を図る。</p> <p>○年間を通じ、全学年が輪番で「あいさつ運動」を展開する。</p> <p>○関係団体の協力を得て、連携を図っていく。</p>	B
健康・体づくり	#####	<p>○学校関係者評価アンケートにおいて、「たくましい心や体をつくるための運動や遊び等の取組は十分だと思いますか。」87%という肯定的評価であった。学校の運動行事やオリンピック・パラリンピック教育の取組に理解を得られていると考える。</p> <p>○学校関係者評価アンケート（中・高学年児童）において、「学校では、自分から進んで運動や外遊びをしていますか。」中学年90%、高学年85%という肯定的評価であった。さらに運動や外遊びへの意欲を喚起していく必要がある。</p>	<p>○オリンピック・パラリンピック教育の全体計画・年間計画を作成し、計画的に取り組む。 ・児童の体力・健康増進の取組 ・オリンピック・パラリンピックの意義を理解する取組 ・国際理解や障害者理解に関する取組 ・保護者・地域への啓発</p> <p>○体育授業の充実や、マラソン週間・大会、大なわ週間・大会等の拡充を通して、児童の基礎体力向上を図る。</p> <p>○歯みがき指導をはじめ、自分の健康を見つめる活動を通して、児童の健康に対する意識を高める。</p> <p>○児童の体力・健康増進について、保護者の協力を求めていく。</p>	B
保護者・地域との連携	#####	<p>○学校関係者評価アンケート（保護者）において、「保護者や地域に対して積極的に情報を提供し、開かれた学校作りにも努めている。」91%「教員は、がんばったことを認めてくれますか。」93%という肯定的評価であった。学校・保護者・地域の連携について、理解・協力を得られていると考える。</p>	<p>○これまで学校に協力いただいた地域人材の整理を行い、年間計画に明確に示していく。</p> <p>○OPTA、富士見パトロール隊等との連携を強める。</p> <p>○地区協議会と連携し、防災対策を検討していく。</p> <p>○学校HPの内容の精選と更新の効率化を図り、学校の発信力を高める。</p>	B
特色ある教育活動	<p>○算数習熟度別指導では、グループによって問題や展開を変えるなどの工夫をして、児童の実態に対応した授業を進めることができた。</p> <p>○日本語指導により、児童に基礎的内容を身に付けさせるとともに、自信をもたせることができた。</p> <p>○いしわら教室の通級指導では、個別の指導計画を作成し、きめ細やかに指導することができた。</p>	<p>○学校関係者評価アンケート（中・高学年児童）において、「先生は、自分の話をよく聞いてくれますか。」中学年91%、高学年97%「先生は、がんばったことを認めてくれますか。」中学年89%、高学年96%という肯定的評価であった。子どもたちが、自分が認められているという有用感とともに力を付けていけるように、今後も取組の強化を図っていく。</p>	<p>○いしわら教室の機能を新拠点校に分けることにより、組織の効率化や指導の充実を図る。</p> <p>○日本語指導については、校内委員会との連携を図り、担任やコーディネーター等と情報共有していく。</p> <p>○学級の指導との相乗効果を図る。</p>	B
	<p>○文化文芸活動や体験活動を多く実施した。児童の感想には、感動や驚きの言葉が見られ、興味・関心を高める様子が見られた。</p>	<p>○学校関係者評価アンケート（中・高学年児童）において、「学校や家では、自分から進んで本を読むようにしていますか。」中学年80%、高学年78%という肯定的評価であった。児童の読書への関心は十分とは言えない。今後、さらなる取組が必要である。</p>	<p>○読書活動のさらなる充実を目指し、読書週間の取組にバリエーションを加えていく。また、授業での読書指導を計画的に行う。</p> <p>○オリンピック・パラリンピック教育とも関連させ、自国文化を知るために日本の文化文芸活動を体験させたり、国際理解を視野に多様な活動を体験させたりしていく。</p>	B